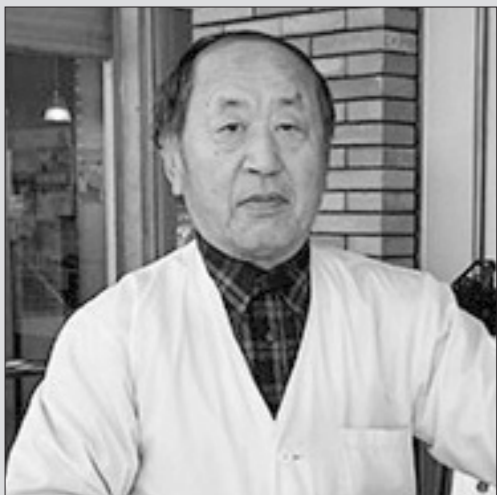


街の活性化をめざし、 テント村で地元特産品を発信！

有限会社 木曾精肉店

代表取締役 木曾 則雄さん



木曾 則雄さん

観光客に地元をPRする施設不足がきっかけ

昭和32（1957）年に創業し、現在は亀岡市のJR馬堀駅前で精肉販売専門店とステーキレストランを運営する有限会社木曾精肉店。昭和45（1970）年に精肉店をオープンした当初から、地元で生産された亀岡牛の精肉販売を始め、商店街の活性化と、にぎわいのある街づくりにも積極的に取り組んできました。

JR馬堀駅は、嵯峨野トロッコ列車の終着点であるトロッコ亀岡駅から徒歩約10分の場所に位置します。トロッコ嵯峨野駅からトロッコ亀岡駅までの7.3キロを約25分で結ぶ嵯峨野トロッコ列車は、春は山桜と新緑、夏は川のせせらぎ、秋は紅葉、冬は雪景色と、四季折々の保津川溪谷の美しさが楽しめる観光列車です。現在では京都観光の定番となり、年間約90万人の観光客がトロッコ亀岡駅で乗降するようになりました。

それだけ多くの観光客がすぐ近くの駅まで訪れているにも関わらず、約4割の乗客がトロッコ列車で嵯峨野方面に折り返し、トロッコ亀岡駅で降りて保津川下りを楽しんだ約6割の乗客も、ほとんどがトロッコ亀岡駅から同じ線路を帰っていきます。

一方、亀岡の玄関口と呼ばれるJR馬堀駅では、駅構内にあった地元運営の案内所が平成23（2011）年に撤退。代表取締役の木曾則雄さんは、せっかくの観光客に亀岡の良さをPRしたり、特産品を販売する施設や店舗がないことを残念に思っていました。そこでスタートしたのが、JR馬堀駅前に取得した土地でテント村を開設する計画です。



JR馬堀駅前ではステーキレストランを営業



トロッコ亀岡駅に続く道路にテント村をオープン

亀岡牛の料理が気軽に楽しめるテント村を開設

JR馬堀駅の再開発の際、木曾さんは駅前からトロッコ亀岡駅に続く道路に面した約200㎡の土地を取得しました。この好立地を活用して平成22（2012）年の秋に誕生したのが、4m×21mの面積に設置したテント村

観光資源の活用

です。店舗をテントにすることで設備投資費用を抑え、亀岡牛や地元の農作物を使った料理を安い料金で提供できます。またその開放的な作りから、観光客が屋台感覚で気軽に立ち寄れる雰囲気も演出できました。一角には亀岡名物のお菓子や特産品、取れたての野菜などを販売するコーナーも設け、地元の魅力をPRします。

想定通り、ワンコイン（500円）程度で食べられる、亀岡牛を使った庶民的な料理が人気を集めました。定番メニューとなったのは、テールスープを使ったうどんや、牛肉の巻き寿司、もつ鍋などです。また一人1500円ほどの予算で亀岡牛のバーベキューを楽しめるプランは、団体客に好評を得ています。

オープンしてすぐの紅葉の季節には、週末を中心にたくさんの観光客が訪れ、多い時で1日50人ほどの集客がありました。冬場はトロッコ列車の休業とともに店舗を休業。翌春に営業を再開するものの、桜のシーズンにも関わらず、雨の日が多くてお客が集まらず、木曾さんは天候に集客が大きく左右される観光業の難しさを実感しました。



紅葉のシーズンにたくさんの観光客でにぎわうテント村

地元で溶け込むテント村づくりを展開

このテント村は、JR車内からよく見える位置にあります。沿線に住む住民に親しみを感じてもらい、地元の「にぎわいづくりに参加してもらおうと、テントの屋根の描くイラスト制作を地元の亀岡高校に依頼。生徒たちが描いた、保津川の四季をモチーフにした楽しいイラストが、亀岡のPRに一役買うようになりました。また生徒が制作した「亀岡牛のオブジェ」も同校から寄贈され、テント村のシンボルになっています。

調理を担当するのは、料理が得意な60~70歳代の地元の女性たちです。5名ほどのスタッフが交替で腕を振っています。安くておいしい料理が食べられるテント



亀岡高校から寄贈された亀岡牛の像は生徒が制作

村は、地域の人々にも受け入れられ、地元からの集客が4割を占めるようになりました。

より便利で快適に利用できるテント村を追求

昨シーズン中は、テントの屋根が雨漏りがするというトラブルに悩まされました。にぎわいは生み出せたものの、人の流れを大きく変えるまでには至らず、採算を取るにはもう少し時間が掛かりそうです。それでも、半屋外の開放的な空間で飲食を楽しんだり、ラフティングの帰りの客が濡れた衣服で気軽に入店できるテント村に、木曾さんは大きな可能性を感じています。

「雨漏りの対策が万全にできれば、たこ焼きなどの営業でテント村に参加したいという業者が3社名乗りを上げています。まずは屋根を補修し、屋台の良さを活かしながら集客をめざすつもりです」と木曾さん。

現在、トロッコ亀岡駅の周辺を回る馬車に屋台に立ち寄ってもらうように交渉したり、保津川下りやトロッコ列車のチケットを屋台で販売できるようにするために、各方面と調整中です。また、亀岡市の観光案内所に広報を依頼するとともに、トロッコ亀岡駅駅舎の近くに看板も設置しました。「美しい山と川、きれいな空気に囲まれた亀岡で、たくさんのお客さんにゆっくり時間を過ごしてほしい」と、木曾さんは期待します。

事業概要

有限会社木曾精肉店

<http://www.gyuraku.jp/>

代表：代表取締役 木曾 則雄

業種：枝肉卸、小売

創業：昭和32年9月

住所：〒621-0828 京都府亀岡市篠町馬堀駅前

2丁目203番の1

TEL：0771-22-5654 FAX：0771-22-5654